

大臣級会合における松田大臣 Opening Address

(第6回アジア原子力フォーラム大臣級会合 平成 17 年 12 月 1 日)

(冒頭: 歓迎の辞)

第 6 回アジア原子力協力フォーラムの大臣級会合の開会に当たりまして、主催者として、また、日本国政府において原子力利用を含む科学技術政策全般を担当している閣僚としてご挨拶申し上げます。

初めに、オーストラリア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ及びベトナムからのご参加と今回の会合よりバングラディッシュがオブザーバー参加となったことを心より歓迎いたします。

(FNCAに関する基本認識)

私は、「FNCA の目的は、積極的なパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的発展を促進することを目指す。」と認識しています。

また、先ごろ決定された我が国の原子力政策の基本方針を示した「原子力政策大綱」においても、「途上国協力については、相手国の経済社会基盤の向上、核不拡散体制の確立・強化及び安全基盤の形成などに寄与することを目的とし、アジアを中心に協力を推進し、パートナーシップに基づくことを基本とする。」としており、今後とも、我が国としては、このような認識に立ち、FNCA に関する活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

本日は、この場を借りて原子力利用に関する基本認識及び FNCA における私の期待を申し述べたいと思います。

(放射線利用)

第一に、放射線利用については、アジアにおける原子力利用の現状を踏まえると、FNCA 協力プロジェクトにおいて極めて重要な分野であり、既に、農業利用の分野、医学利用の分野等において数多くの成果が得られ、生活に活かされております。引き続き、こうした分野における関係国間の協力が進展し、放射線利用が普及し、大勢の人々が放射線利用の恩恵を受け、人々の生活が向上することを期待しています。

(原子力のエネルギー利用)

第二に、エネルギー利用については、FNCA参加国でそれぞれ取り組みの状況は違っておりますが、地球温暖化問題への対応が強く求められる中で、原子力のエネルギー利用の重要性は高まるものと信じております。また、今後とも大きい経済発展が見込まれるアジア地域においてはエネルギーの安定供給は各国の持続的発展に不可欠であるという認識はますます高まっています。昨年よりFNCAの中でパネルを設置し、3年計画で「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」について討議を開始したところであり、安全を大前提とした、原子力エネルギーの役割と FNCA 各国の協力について引き続き議論することが重要と考えます。

(原子力の平和利用及び核不拡散)

上述のような原子力利用に係る取組を推進していくためには平和利用、核不拡散の担保、安全の確保、核セキュリティの担保が大前提です。

第一に、原子力利用を推進していくためには、核不拡散体制の維持が極めて重要です。我が国は、原爆による悲惨な体験を有する唯一の被ば

く国として、「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」との非核三原則を堅持しております。また、我が国はNPTに加入し、IAEAと包括的保証措置協定及び追加議定書を締結するとともに対応する国内保障措置制度を整備・充実してきております。NPT体制の強化のためには、原子力利用を行なう全ての国が追加議定書を締結し、その義務を誠実に履行していくことが極めて重要であると考えており、未締結国に対して、早期の締結を呼びかけます。

(原子力安全・セキュリティ)

第二に、原子力の平和利用の推進に当たって、安全の確保は大前提ではありますが、核テロリズムの脅威が高まる中、国際社会が一致団結して、核物質の管理の強化を図るといった核セキュリティの強化の問題に取り組むことも不可欠です。我が国は、「核によるテロリズム行為の防止に関する条約」及び「核物質の防護に関する条約」の改正が採択されたことを歓迎するとともに、FNCA参加国に対し、両条約の早期締結と早期実施を呼びかけます。また、放射線源の管理も重要であり、FNCA参加国が、IAEAの放射線源の安全とセキュリティに関する行動規範へのコミットを強化するよう求めます。

(科学技術と原子力)

さて、アジア地域において活力ある豊かな社会を実現するためには、各国が科学技術の振興を通じて産業の開発を行い、持続的な経済発展を図ることが重要であります。原子力研究開発は、他の分野の研究開発の成果を活用する総合的な総合科学技術分野であるとともに、バイオテクノロジー、ナノテク・新材料等の先端分野に対し有力な知見・手段を提

供するものであることから、原子力研究開発と科学技術振興全般とを連携させながら推進することが重要です。したがって、本日のセッション3「円卓討議」のテーマの1つの「科学技術と原子力」はそれを踏まえて設定いたしました。

円卓討議では、科学技術政策において、原子力研究開発をどう位置付けていくか、原子力などの研究成果をいかに実用化に結びつけていくか、原子力をはじめとする科学技術に対する国民の理解をどのように進めるか、等について議論を行い、各国の経験を共有し、各国における政策に反映させるとともに、アジア地域における協力のため将来像の形成に資することとしたいと考えております。

(結語)

最後に、本大臣級会合において実りの多い議論が展開され、これをもとに、より良い協力が活発に展開されることを期待します。また、その成果によって参加各国の原子力分野における活動が安全確保及び国民理解を大前提により健全に促進され、社会経済の発展に寄与することを祈念いたします。

ご静聴ありがとうございました。